

# 花街を 生きる

お茶屋へ向かう、多栄（左）と多栄之。65歳差の「姉妹」だ（11月15日、京都市東山区で）川崎公太撮影



## 65歳差「姉妹」おたの申しませす

### 花街を生きる ①

秋の装いの芸妓が踊る舞台上、緋毛氈に正座した91歳の多栄が、背筋を伸ばし、三味線を弾く。京都五花街の一つ宮川町が10月、京都市内で開いた特別公演「宮川町錦秋花すがた」で一幕だ。

出番を終えた多栄は、楽屋に戻らず、緊張した面持ちをしつつ舞台袖で出番を待つ26歳の多栄之に寄り添い、ささやいた。「舞台上向かう時には一礼して。幕が上がったら大きく息すんのよ」多栄之は「おおきに、姉さん。おたの申しますと返すと、初めて披露する浄瑠璃の清元に臨んだ。2人は、多栄之が芸妓になった昨年11月22日、絆を固める杯を交

わして65歳差の「姉妹」となった。新人の芸舞妓が先輩の芸妓と姉妹関係を結んで名前の一部を受け継ぎ、しきたりやおもてなし、芸事の心構えを教わる花街の伝統のひとつだったものだ。

多栄は大阪市生まれ、あつた南地五花街の一門町の芸妓を20年余り代は高度成長期。大阪は財界人や文化人が集った。今に続く芸事や引退後は40年以上、好きや」と思いが募りに宮川町で再デビューやお茶屋での宴席では弾いて唄う「地方」を京都市内には祇園甲先斗町、上七軒、祇園

がある。213人の芸舞妓（10未現在）がいるが、多栄のように高齡はほとんどいない。一方、多栄之は、京都市出身舞妓に憧れて茶道や舞踊を習った。大学に進学して会計補助も

京都の花街・宮川町で最高齡の芸妓・多栄（91）は1932年大阪市西区で生まれた。金庫製作所を営む祖父の家で、日本舞踊・藤間流の師匠だった母に育てられ、幼い頃から踊りを習った。45年3月の大阪大空襲で自宅が全焼。6月には市内の避難先も被災し、疎開した高松市で終戦を迎えた。暗い時代も、芸事を生かせる芸舞妓への憧れを持ち続けた。51年に高校を卒業後、「せつかなら舞妓さん」と母親に京都の花街の事情を聞いてもらった。関係者の言葉はにべもなかった。もう18歳ではあかん。京都の花街で舞妓を目指すのは当時、15歳くらいまでだった。そこで母親の知人に大阪・ミナミにある南地五花街の一つ宗右衛門町を紹介してもらった。昭和初期に計3,000人の芸妓を抱えた五花街は、空襲で大きな被害を受けた

## 芸妓は、ええ仕事やな

### 花街を生きる ②

「好きな踊りや三味線ができ、お客さんと色んな話ができる。芸妓は、ええ仕事やな」と思いました（敬称略）



宗右衛門町で芸妓をしていた頃の多栄（1954年頃）

宝恵かごに乗った多栄（1954年頃）＝いずれも本人提供



笑顔で舞臺（10月27日、京都市東山区で）川崎公太撮影

## 万博客 接待にスマイル

### 花街を生きる ③

1970年大阪万博の開幕が迫る中、多栄（91）は、語学学校で英語を学び始めた。大阪・南地五花街の一つ宗右衛門町で芸妓になって15年以上が過ぎていた。万博関連で来日する外国人客を料亭でもてなすことが重要な仕事になってきたからだ。「マイ・ネーム・イズ・ハッピー・スマイル」。宗右衛門町での芸名・福笑を自分流に英語で訳して自己紹介すると、宴席に笑顔の輪が広がった。多くの外国人客にとって宴席で出される刺し身が物珍しかった時代。トロは「ツツシ」、イカは「ワトルフィッシュ」と説明して「納得して食べてもらえよう」と心がけていた。万博会場の「お祭り広場」では、南地の芸妓約1,000人が宝恵の行列を披露し、喜ばせた。多栄は、芸妓も6か国語を話せるように、言葉に戻した」と振り返る。宗右衛門町にあった老舗料亭「南地大和屋」からは、よく声がかかった。作

1970年大阪万博の開幕が迫る中、多栄（91）は、語学学校で英語を学び始めた。大阪・南地五花街の一つ宗右衛門町で芸妓になって15年以上が過ぎていた。万博関連で来日する外国人客を料亭でもてなすことが重要な仕事になってきたからだ。「マイ・ネーム・イズ・ハッピー・スマイル」。宗右衛門町での芸名・福笑を自分流に英語で訳して自己紹介すると、宴席に笑顔の輪が広がった。多くの外国人客にとって宴席で出される刺し身が物珍しかった時代。トロは「ツツシ」、イカは「ワトルフィッシュ」と説明して「納得して食べてもらえよう」と心がけていた。万博会場の「お祭り広場」では、南地の芸妓約1,000人が宝恵の行列を披露し、喜ばせた。多栄は、芸妓も6か国語を話せるように、言葉に戻した」と振り返る。宗右衛門町にあった老舗料亭「南地大和屋」からは、よく声がかかった。作

2023年12月4～6日  
読売新聞夕刊  
連載